第1号議案 2020年度事業報告

2020年度事業は、第5期中期計画にもとづき事業活動を進めました。

I. 組織運営・財政運営報告（期間；2020年4月1日～2021年3月31日）

*□内は計画

1. 組織運営

1) 会員

近年は設立時から事業テーマが変化し多様なテーマを扱っているため団体の特性が見え難いことなどから、ここ数年会員数が微減しています。2020年度は各種の事業や企画参加、広報活動の強化などを通じて会員の拡充に努めます。

2020年度会員数は、正会員48(団体16、個人32)、賛助会員19(団体10、個人9)、総数67人・団体でした。前年度と比較すると、団体正会員が2減、個人正会員が16減、団体賛助会員が4減、個人賛助会員が10減で、全体で28人・団体の減少でした。会員減少の要因として、COVID-19の影響もあり、また「アドボカシー」の発行が1回に留まるなど、会員等への送付物等が滞っていることがあげられます。

○ 会員数の推移

		2018年度	2019年度	2020年度
正会員	団体	23	18	16
	個人	53	48	32
	計	76	66	48
賛助会員	団体	16	14	10
	個人	20	15	9
	計	36	29	19
総計	団体	39	32	26
	個人	74	63	41
	計	113	95	67

2) 総会

(1) 2020年度通常総会

- 日時：2020年6月8日(月)14時05分～15時20分
- 場所：新宿区歌舞伎町 2-19-13 ASKビル 4階会議室
- ・ 2020年3月末の正会員数68のうち、本総会の出席正会員は16、委任状30、合計有効総数46で正会員の1/2以上の出席により本総会が成立していることを確認し、下記の議案の審議を行いました。
- ・ 2019年度の活動について報告があり、審議の結果、出席者全員の賛成を持って承認されました。
- ・ 2019年度活動計算書・貸借対照表・財務諸表の注記・事業別損益の状況について報告があり、続いて監査報告が行われました。審議の結果、出席者全員の賛成を持って承認されました。
- ・ 2020年度の事業計画案が提案され、審議の結果、出席者全員の賛成を持って承認されました。
- ・ 2020年度予算案が提案され、審議の結果、出席者全員の賛成を持って承認されました。
- ・ 役員を選任案が提案され、審議の結果、出席者全員の賛成を持って承認され、被選任者は役員就任を承諾し

ました。新任理事及び監事、退任理事及び監事は以下のとおりです。

(新任)理事 金子 匡良、工藤 春代、武内 佳恵、豊泉 惣子、桃井 貴子、渡部 真実／監事 辻 利夫

(退任)理事 辻 利夫、西崎 光子、林 泰義／監事 畑山 弘

3)体制等

①理事・監事体制

理事会は理事18名、監事2名体制で運営しました。

【理事】18名

赤坂 禎博、伊藤 久雄、奥田 雅子、金子 匡良、工藤 春代、小林 幸治、小林 徹也(副理事長)、
佐々木 貴子(理事長)、塩田 三恵子、武内 佳恵、田中 のり子、土屋 真美子、坪郷 實、豊泉 惣子、
三浦 一浩、三木 由希子、桃井 貴子、渡部 真実(副理事長)

【監事】2名

辻 利夫、矢崎 芽衣

草の根市民基金・ぐらん、ソーシャル・ジャスティス基金(SJF)については、市民からの指定寄付金を財源とする助成事業であることから、理事会のもとでの「草の根市民基金・ぐらん運営委員会」、「SJF 運営委員会」による管理運営を基本とし、その決定事項を理事会で承認しました。

②理事会・役員会

理事会は年間4回程度開催します。理事長、副理事長、事業担当理事等による役員会を隔月での開催を基本として、日常的な事業活動の管理運営、方針・計画案等の作成を行います。

理事会を5回、臨時理事会を1回開催し、理事長、副理事長、事業担当理事、会計担当理事による役員会を7回開催しました。

〔通常総会〕	2020年6月8日
〔理事会〕 第1回	2020年4月6日
臨時理事会	2020年6月8日
第2回	2020年7月13日
第3回	2020年10月5日
第4回	2020年12月23日
第5回	2021年3月19日

〔役員会〕 第1回:2020年4月24日、第2回:6月3日、第3回:6月22日、第4回:8月4日、
第5回:9月24日、第6回:12月10日、第7回:2021年2月26日

③事務局スタッフの体制

事務局体制は、年度当初に1名の退任と1名の新任(再任)採用、8月に1名退職、9月に1名新任採用があり、年度を通じて6名のスタッフで業務を遂行しました。

事務局スタッフ(職員)の継続、新任、再任、退任の状況は下記の通りでした。

- ・ 継続 伊藤 久雄 (研究員:主にまちぼっとリサーチを担当)
- ・ 新任 金 和代(キムファデ:主に市民社会強化活動支援事業を担当(POとして):9月1日より)
- ・ 継続 小林 幸治 (事務局長)
- ・ 継続 瀧川 恵理 (主に SJF を担当)
- ・ 再任 西畑 ありさ(主に草の根市民基金・ぐらんを担当:2020年4月より)
- ・ 継続 深田 祐子 (主に会計・経理、総務を担当)
- ・ 退任 辻 利夫 (主に会計・経理、総務を担当:2020年4月まで)
- ・ 退任 轟木 洋子(主に市民社会強化活動支援事業を担当(POとして):2020年8月まで)

4)その他

①「生活クラブと認定 NPO 法人まちぽっと」組織・政策協議会

COVID-19 の影響により開催できておりませんでした生活クラブ生協・東京の理事長、専務理事、常務理事と本会理事長、副理事長、事業担当理事、会計担当理事による2020年度第1回の組織・政策協議会の下記の通り開催しました。

- ・ 第1回 2021年4月7日(水)13時00分～14時40分/生活クラブ館及びオンライン(出席者8名)

②草の根市民基金・ぐらん、ソーシャル・ジャスティス基金(SJF)の運営体制

草の根市民基金・ぐらん、ソーシャル・ジャスティス基金(SJF)については、市民からの指定寄付金を財源とする助成事業であることから、理事会のもとでの「草の根市民基金・ぐらん運営委員会」、「SJF 運営委員会」による管理運営を基本とし、その決定事項を理事会で承認しました。

③事務所の縮小

「市民社会強化活動支援事業(Pecs)」に実施に伴い2019年12月より借用しておりました ASK ビル802号室を、経費の節減及び COVID-19 の影響により返却し事務所を縮小しました。

④会員・寄付者等データベース再構築

会員・寄付者等のデータベースをこれまでファイルメーカーで管理しておりましたが、その管理(入出力、更新等)が特定の職員のみでしか作業できず、寄付者への領収書等の発行作業が円滑に行えないなど、salesforce を活用したデータベースを構築しました。また、寄付方法の多様化を図るためクレジットカード決済などの導入などの準備を並行して進めました。

⑤認定特定非営利活動法人更新申請

認定特定非営利活動法人の認定の有効期間の期限となり、その更新の申請必要な書類等を東京都に提出しました。審査及び決定については 2021 年度 7 月を目途に進められる予定です。

2. 財政運営

1)2020年度財政

本会計は NPO 法人会計基準を採用し、「活動計算書」及び財務諸表を作成しました。また、草の根市民基金・ぐらん、ソーシャル・ジャスティス基金(SJF)、市民社会強化活動支援事業(Pecs)は本会計から分離し特別会計としています。

(1)2020年度財政報告

草の根市民基金・ぐらんなは、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大により2019年度に実施予定でした都内助成350万円(上限)の実施と、2020年度助成400万円を運営委員会での検討をふまえて行います。そのための生活クラブ組合員による登録寄付を含めて750万円程度の寄付を目標とします。

ソーシャル・ジャスティス基金(SJF)は、300万円の助成と定期的なアドボカシーカフェの開催を行います。そのための原資の一部として寄付目標を70万円としました。なお、『Social Justiceを求める市民活動・連携促進プロジェクト(SJ連携PJ)』に対する庭野平和財団による助成(3か年予定)が確定しています。市民社会強化活動支援事業(Pecs)は、実行団体への活動助成も含めて約4,309万円の助成により実施します。草の根市民基金・ぐらん及びSJF、Pecs以外の寄付額を250万円、受託事業収益額300万円、助成金・補助金額を300万円を目標額として事業を実施します。

当期正味財産合計は、4,150万5,142円で、昨年度より1,484万8,686円の増額となりました。

各会計部門の内訳は、まちぽっと会計は47万1,566円の増額、特別会計の草の根市民基金・ぐらんなは292万6,087円の減額、ソーシャル・ジャスティス基金(SJF)は1,730万3,207円の増額となりました。

ただし、草の根市民基金・ぐらんなは会計上は292万6,087円の減額でしたが、助成金支出の766万6000円

には COVID-19 の感染拡大により執行に至らなかった 2019 年度分助成金 347 万円と COVID-19 特別助成 70 万円が含まれており、今年度では実質約 125 万円の増額となり、その多くが生活クラブ組合員の寄付によるものでした。

SJF は 2,156 万 3,100 円の個人寄付(遺贈)および庭野平和財団から 30 万円の助成金を受け正味財産が増額しました。

また、市民社会強化活動支援事業(Pecs)は、休眠預金等活用制度にもとづく指定活用団体一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA)より交付された助成金(2019 年度を含めた 2 か年分を 2019 年度に交付:前受金として計上)4,309 万 8,336 円と、「コロナ緊急支援」として交付された助成金 2,324 万 5,000 円を 10 団体の実行団体への助成金 3,948 万 4,270 円と経費 941 万 1,632 円を差し引いた 1,744 万 7,434 円を前受金として貸借対照表に計上しました。

まちぽっと会計は、収入は前年度とほぼ同額でしたが、支出特に人件費が約 260 万円の減額(削減)で約 47 万円の黒字決算となり、正味財産は 381 万 3,821 円となりました。ただし、その正味財産には、事務所賃貸借敷金約 81 万円、出版物の棚卸高約 55 万円、出資金 16 万円が含まれており、実質の資産は 228 万 2,338 円であり、2021 年度の運営資金も厳しい状況です。

● [参考]部門別貸借対照表(2021 年 3 月 31 日現在)

	まちぽっと	SJF部門	草の根市民基金 部門	PECS部門	総計
資産	4,104,821	31,517,563	8,433,725	17,583,632	61,639,741
現預金	2,533,169	31,517,563	8,419,425	17,569,332	60,039,489
未収金	25,879				25,879
立替金					0
前払費用	14,300		14,300	14,300	42,900
棚卸資産	552,867				552,867
敷金	818,606				818,606
出資金	160,000				160,000
負債	291,000	1,718,634	541,333	17,583,632	20,134,599
未払助成金		1,500,000	435,000		1,935,000
未払金	155,339	41,360	106,333	136,198	439,230
前受金		175,000		17,447,434	17,622,434
未払法人税等	70,000				70,000
預り金	65,661	2,274			67,935
正味財産計	3,813,821	29,798,929	7,892,392	0	41,505,142

※ 上記 PECS 部門の前受金 17,447,434 円と「2020 年度財務諸表の注記」(19 頁)の「3. 用途等が制約された寄付・助成金等の内訳」の表の備考 13,932,434 円(前受金として計上)の差額 3,515,000 円は「コロナ緊急支援枠」の助成金の一部で 2021 年度の助成金です。

Ⅱ. 事業活動報告（期間;2020年4月1日～2021年3月31日）

*□内は計画

i. 「市民自治・参加・分権」にもとづく地域・市民社会の強化

地域・市民社会の強化のための調査研究、事業活動への支援、協力、政策・制度、しくみづくり、市民事業活動や自治体議員の担い手づくりのための各種事業活動を継続的に進めます。

1. 「空き家活用・居住支援」事業

「市民・地域居住支援連絡協議会」の活動をはじめとする「空き家活用」及び「住宅確保要配慮者に対する居住・見守り支援の取組み」を継承し、さらに地域資源を活用した地域づくりに向けた事業の実施や政策・制度の改善などの取組みを進めます。

《事業活動報告》

「市民・地域居住支援推進連絡協議会」を3回開催し、生活クラブ生協・東京による居住支援の取組みをはじめ関係する情報等の共有化とともに、「居住支援学習会」を開催し座間市での居住支援の取組みを学びました。

また、府中での取組みを具体化するため「居住支援市民連絡会・府中」が設置され、相談会の開催などについて「麒麟福祉財団」の助成事業として実施し、協力して進めました。

- 2020年度・第1回「市民・地域居住支援推進連絡協議会」
 - 日時/会場:2020年6月16日10:00~/ASKビル802号室
- 2020年度・第2回「市民・地域居住支援推進連絡協議会」
 - 日時/会場:2020年9月30日15:00~/ASKビル4階会議室
- 2020年度・第3回「市民・地域居住支援推進連絡協議会」
 - 日時/会場:2021年3月9日15:00~/オンライン(Zoom)
- ☆ メンバー:生活クラブ:赤坂偵博、田代謙二、石原由理子、中村あつし、大谷和子/ACT:山木きょう子/生活サポート基金:久保田修三/認定NPO まちぼっと:伊藤久雄、辻利夫/東京・生活者ネットワーク:武内好恵、日向美砂子/まちぼっと兼市民政策調査会:小林幸治
- 府中における居住支援(居住支援市民連絡会・府中)
 - 相談会の開催:11月7日、11月19日/府中市車返団地
- 第1回居住支援学習会
 - 日時:2020年12月9日14:00~/オンライン(Zoom)・生活クラブ館併用
 - ・ テーマ:あらためて住まいの支援を考えよう
座間の取組みから持続可能な活動と自治体とのかかわりを学ぶ
 - ・ プログラム:講演① NPO法人ワンエイドによる居住支援の取組みとその課題
NPO法人ワンエイド理事長 松本 篝さん
講演② 座間市における居住支援の取組み
座間市生活援護課自立サポート担当 武藤 清哉さん

2. 「まちぼっとセミナー」等開催事業

「まちぼっとセミナー」の開催をはじめ、自治体政策・制度等に関わる課題について学び、考え、対話する場を設け、地域・自治体づくりに向けた取組みを進めます。

《事業活動報告》

まちぼっとセミナー2020の開催に向けて検討委員会にて検討を進めましたが、COVID-19の影響もありまたテーマの設定などができず開催に至りませんでした。

- 検討委員:伊藤久雄、小林幸治、武内佳恵、辻利夫、畑山弘、日向美砂子、三浦一浩
- まちぽっとセミナー検討委員会
 - 日時:2020年6月29日15時~/オンライン
- オンライン・レクチャー
 - 日時:2020年7月27日(月)14時~
 - 内容:「新しい『公共空間』をつくる」をテーマに林和孝さんからレクチャー

3.「自治体政策・制度」調査研究事業

「自治体政策・条例化 研究会」への参加及び協力などをはじめ、個別テーマによる調査研究を進め、自治体政策・制度づくりに取り組みます。

《事業活動報告》

市民セクター政策機構及び市民政策調査会が主体となり進められた「市民が描く社会像 2019—自治体政策リスト 30」をもとに具体的な自治体政策づくりに向けた取組みに協力しました。「こども政策検討チーム」と「都市農業推進政策検討チーム」により具体的な取組みが進められ、2020年10月に第一次報告をまとめ報告提案フォーラムが開催され、その準備等に協力して進めました。

- 子ども政策検討チーム
 - テーマ:多様な子どもの参加・参画の場をつくる
 - メンバー:岩永 康代(国分寺・生活者ネットワーク/国分寺市議)/岩本 博子(小平・生活者ネットワーク/元小平市議)/小林 幸治(市民政策調査会、認定 NPO まちぽっと:事務局)/齋藤 万紀子(埼玉県市民ネットワーク/羽生市議)/田頭 ゆう子(小金井・生活者ネットワーク/小金井市議)/西埜 なお美(府中・生活者ネットワーク/府中市議)/橋本 牧(市民セクター政策機構/元練馬区議)/日向 美砂子(東京・生活者ネットワーク/前小平市議)/村上 典子(豊島・生活者ネットワーク/前豊島区議)
- 都市農業推進政策検討チーム
 - テーマ:都市農業の振興により農業・農地を守り育む
 - メンバー:伊藤 久雄(認定 NPO まちぽっと理事)/岩田 京子(埼玉県市民ネットワーク/吉川市議)/古池 初美(日野・生活者ネットワーク・元日野市議)/後藤 ゆう子(西東京・生活者ネットワーク/西東京市議)/小林 幸治(事務局:認定 NPO まちぽっと理事兼事務局長、市民政策調査会)/佐藤 悦子(小平・生活者ネットワーク/小平市議)/白井 和宏(市民セクター政策機構専務理事)/苗村 洋子(都議会生活者ネットワーク)/武内 好恵(東京・生活者ネットワーク/元多摩市議)/《アドバイザー》大江 正章(株コモンズ代表)
- 報告提案フォーラムの開催
 - 日 時:2020年10月28日(水)17時~19時
 - 会場等:東京・生活者ネットワーク会議室及びオンライン(ZOOM)

4.「市民事業・自治体議員研修」事業

市民自治・分権・参加の普及と強化のため、市民社会の担い手となる主に市民や自治体議員・職員などを対象とした学習会・研修会等、学びの場づくりを進めます。

《事業活動報告》

学習会・研修会等、学びの場づくりなどの活動には至りませんでした。

5. ケアラー支援調査プロジェクト

《事業活動報告》

介護の社会化としてスタートした介護保険制度は開始から20年経ったが、依然として高齢者介護は家族頼みの

状況で、障がい者ケアも同様です。家族のあり方や個人のライフスタイルが多様化したいま、家族をケアする人の状況もさまざまであり、一人ひとりの状況を踏まえたきめ細やかな支援がさらに求められています。ケアを受ける当事者だけでなく、家族もまた個人として充実した生活と人生を送るために必要な地域での支援とは何かを探り提案するため以下調査1及び2を実施しました。

その結果として、生活クラブ組合員を対象としたアンケート調査を実施し、その集計を行い生活クラブ生協・東京に提出し、プロジェクトメンバーを主な対象としたオンラインでの報告を行いました。インタビュー調査については東京・生活者ネットワーク関係者を中心に実施し、その結果について内部報告等を行いました。

なお、ケアラー支援制度等の検討については継続して進めることとしました。

- 内容:調査 1. ケアラーの現状と課題を知るための聞き取り調査
 - 1)調査のための学習会
 - ・ 開催日:2020年10月22日(木)14時~16時30分
 - ・ 講師:堀越栄子さん(日本女子大学名誉教授/日本ケアラー連盟共同代表)
 - 2)聞き取り調査
 - 東京・生活者ネットワーク関係者を中心に約20名のケアラーに聞き取り(インタビュー)調査を実施しました。
- 調査 2)ケアの現状と課題を知るためのアンケート調査
 - 生活クラブ・東京が調査主体となり組合員約7万人を対象に実施し、約4千人から回答が得られました。認定NPO法人まちぼっとでその集計を行い図表等も含めた調査結果を生活クラブに提出しました。調査結果は生活クラブ・東京のWEBサイトで公表する予定です。
- 実施主体 「ケアラー支援政策」検討プロジェクト
- 事務局 認定NPO法人まちぼっと/東京・生活者ネットワーク政策調査室

ii. 市民の主体的活動・事業への支援

これまで実施してきた市民の主体的活動・事業への支援にかかわる事業活動を継続するとともに、その取り組みの強化を図ります。

6. 草の根市民基金・ぐらん

都内で活動する市民団体及びアジアを支援する日本の市民団体を支援する助成基金として、「草の根市民基金・ぐらん運営委員会」のもとで助成事業及び交流事業の取り組みを引き続き進めます。

《事業活動報告》

2019年度助成・2020年度活動団体の選考がCOVID-19の影響により2019年度内での実施ができず、7月にオンラインにて非公開での選考会となり、その結果としてアジア草の根助成(新規)と都内草の根助成で7団体への助成が決定しました。その影響により運営委員会も例年よりも多くの開催が必要となりました。

2020年度助成・2021年度活動団体についてはオンラインを基本とした公開での選考会として開催し、その結果としてアジア草の根助成(新規)と都内草の根助成で8団体への助成が決定しました。

助成団体との交流・学習企画として助成団体の関係者をゲストとした交流学習会をオンラインで2回開催し、ニュースレターも3回発行しました。

アジア草の根助成のNPO法人Stand with Syria Japanから、COVID-19の影響により助成事業の遂行が困難となり、2021年度継続助成辞退の申し出があり、2020年度で終了としました。

- 運営委員:[運営委員長]田中のり子 [運営副委員長]奥田雅子
[運営委員]相原光子、木村はるみ、桑原理佐、小松久子、高橋亮介、高田幸詩朗、鶴島佳子、
牧田東一、三浦一浩、山木きょう子、山口ミツ子

- 2019 年度助成・2020 年度活動団体
 - <アジア草の根助成(継続)>
 - ① NPO 法人アクセプト・インターナショナル(50 万円)
 - ② NPO 法人ホープフル・タッチ(50 万円)
 - <アジア草の根助成(新規)>
 - ① NPO 法人 Stand with Syria Japan(50 万円)
 - <都内草の根助成>
 - ① 一般社団法人ミナー(48 万円)
 - ② NPO 法人 POSSE(50 万円)
 - ③ LGBT ハウジングファーストを考える会・東京(50 万円)
 - ④ 認定 NPO 法人アトピッツ地球の子ネットワーク(50 万円)
 - ⑤ 非営利型一般社団法人日本福祉環境整備機構(49 万円)
 - ⑥ NPO 法人 Lino(50 万円)
- 草の根市民基金・ぐらん『COVID-19 対策特別助成』
- 特別助成団体
 - ① 非営利型一般社団法人日本福祉環境整備機構(10万円)
 - ② 特定非営利活動法人日本・バンングラデシュ文化交流会(10万円)
 - ③ NPO 法人楽の会リーラ(10万円)
 - ④ 一般社団法人東京TSネット(10万円)
 - ⑤ 特定非営利活動法人反レイシズム情報センター(10万円)
 - ⑥ 特定非営利活動法人 POSSE(10万円)
 - ⑦ 特定非営利活動法人オン・ザ・ロード(10万円)
- 2020 年度助成・2021 年度活動団体
 - <アジア草の根助成(継続辞退)>
 - ① NPO 法人 Stand with Syria Japan(50 万円)
 - <アジア草の根助成(新規)>
 - ① 一般社団法人平和村ユナイテッド(50 万円)
 - <都内草の根助成>
 - ① 子育て親育ての会(46 万円)
 - ② NPO 法人しょーとてんぱー(50 万円)
 - ③ 特定非営利活動法人柏の友(50 万円)
 - ④ NPO 法人 市民電力連絡会(45 万円)
 - ⑤ しっぷろ(43.5 万円)
 - ⑥ 調布市難聴者体操の会(15.1 万円)
 - ⑦ クリエイティブシェルパ(50 万円)
- 「2019年度助成・2020年度活動団体」オンライン選考会の開催
 - 開催日:2020 年 6 月 19 日(金)15 時~17 時
- 「2020年度助成・2021年度活動団体」公開選考会の開催
 - 開催日:2020 年 2 月 27 日(土)13時~16時
 - 開催方法:生活クラブ館及びオンライン(Zoom)
- 助成団体との交流・学習企画
 - ① 第 1 回交流学習会
 - 開催日:2020 年 10 月 27 日(火)14 時~16 時

- 会場等:生活クラブ館 203 会議室及びオンライン(Zoom)
- テーマ:社会的養護の現状と必要な支援 …人のつながりでこどもの未来をつくる
- ゲスト:大山 遥さん(NPO 法人チャイボラ代表)
- ② 第 2 回交流学習会
 - 開催日:2021 年 1 月 23 日(土)14 時~16 時
 - 会場等:ASK ビル 4F 会議室(新宿歌舞伎町 2-19-13)及びオンライン(Zoom)による
 - テーマ:福祉的な支援が必要な被疑者、被告人の現状と必要な支援
 - ゲスト:中田 雅久さん(一般社団法人東京 TS ネット代表理事)
- ニュースレターの発行
 - No.30 2020年5月発行
 - No.31 2020年9月発行
 - No.32 2021年2月発行

7. ソーシャル・ジャスティス基金(SJF)

「社会的公正」を目指してアドボカシー活動を行う市民団体を支援する助成基金として、「ソーシャル・ジャスティス基金運営委員会」のもとで助成事業を進めるとともに、企画委員会のもとでアドボカシーカフェとして対話事業の取り組みを進めます。また、「Social Justice を求める市民活動・連携促進プロジェクト」を 3 年計画で進めます。

《事業活動報告》

2020年度は第9回助成団体として4団体を選考し助成を行い、2021年1月に助成発表フォーラムを開催しました。アドボカシーカフェは6回開催し、その記録も WEB サイトで公開しました。昨年度より進めてきましたオープンソサエティ財団の助成事業にもとづき JANIC で進められた事業協力については2020年度で終了しました。

- 運営委員:上村英明(恵泉女学園大学、市民外交センター*運営委員長)、金子匡良(法政大学教授/まちぼつと理事)、佐々木貴子(まちぼつと理事長)、土屋真美子(まちぼつと理事)
- 選考委員:上村英明、金子匡良、佐々木貴子、轟木洋子(元シーズ・元アムネスティ)、大河内秀人、(見樹院住職・子どもの権利条約普及関連活動)、土肥潤也(NPO 法人わかものまぢ代表理事)、仲野省吾(庭野平和財団)
- 企画委員:土屋真美子、辻利夫、大河内秀人、寺中誠(大学教員・国際人権法専門)
- 第 9 回助成団体
 - ① NPO 法人 Accept International(100 万円)
 - ② NPO 法人 FoE Japan(100 万円)
 - ③ ジュマ・ネット(100 万円)
 - ④ NPO 法人 ASTA(50 万円)
- 助成発表フォーラム第 9 回
 - 日時:2021 年 1 月 22 日 13:30~16:00
 - 会場:オンライン開催
- アドボカシーカフェ
 - 第 64 回:海外開発ビジネスと人権・地球温暖化—環境社会配慮ガイドラインと市民活動のこれから
 - ・ 日時:6 月 2 日(火)14:00~16:30/オンライン開催
 - ・ 登壇者:酒井功雄さん(Fridays For Future Tokyo)
 - 木口由香さん(メコン・ウォッチ)
 - 第 65 回:若者の妊娠葛藤の背景にある社会課題
 - 相談支援から見えてきたこと、市民のみなさんとできること

- ・ 日時:8月3日(月)13:30~16:00/オンライン開催
- ・ 登壇者:松下清美さん(ピッコラーレ相談支援員/社会福祉士)
細金和子さん(慈愛寮元施設長)
- 第63回:“LGBT”をきっかけとして人権・多様性について“自分ごと”で考える対話
 - ・ 日時:9月5日(土)13:30~16:00/オンライン開催
 - ・ 登壇者:NPO 法人 ASTA
性的マイノリティ当事者やその家族・友人たち
- 第66回:忘れられた小児甲状腺がん患者たち
声を上げられない当事者にどう寄り添い、可視化するのか
 - ・ 10月3日(土)13:30~16:00/オンライン開催
 - ・ ゲスト:千葉親子さん(甲状腺がん支援グループ あじさいの会設立者)
太陽さん(小児甲状腺がん患者)
白石草さん(OurPlanet-TV 代表理事)
- 第67回:“他者への想像力”を〜日韓の歴史認識をめぐる問題にジャーナリストと共に目を向けて〜
 - ・ 10月31日(土)13:30~16:00/オンライン開催・日韓同時通訳付き
 - ・ ゲスト:植村隆さん(ジャーナリストを目指す日韓学生フォーラム実行委員会代表)
西嶋真司さん(映像作家)
「ジャーナリストを目指す日韓学生フォーラム」に参加し、現在メディアで働く記者や
学生:猪股修平さん(中国新聞)・李悞嘏イソラさん(韓国カトリック大学生)・権大鉦
クオンデオクさん(韓国兵役中)・南真臣さん(京都新聞)・姜明錫カンミョンソクさん
(韓国 youtuber)
- 第62回:生きる—重い罪を犯した人の社会復帰と刑罰のあり方—
 - ・ 3月2日(火)13:30~16:00/オンライン開催
 - ・ ゲスト:古畑恒雄さん(弁護士・更生保護法人「更新会」理事長)
マヒル・リラックスさん(トランスジェンダー コラムニスト)
塩田祐子さん(監獄人権センター)

8. 市民社会強化活動支援事業(Pecs)

休眠預金等交付金を活用して、2020年度から全国10団体への助成活動を通じて地域・市民社会の強化をめざし、そのための仕組みづくりや制度の改善なども中長期的な目標として取り組みます。

《事業活動報告》

2020年4月から実行団体10団体の活動が開始されましたが、COVID-19の影響により活動の一時停止や計画の変更などが生じた団体も少なくなく、JANPIAによりコロナ緊急支援が実施されその申請を行い実行団体8団体への緊急助成を行いました。当初予定していた実行団体への訪問も4団体のみとなり、月次ミーティングなどもオンラインでの実施となりました。PO研修は役員研修も兼ねて6回開催し、各回ゲストによるオンラインでの開催となりました。

- 実行団体(※印は、緊急支援枠による助成も実施した団体)
 - ① NPO 法人 エコ・コミュニケーションセンター (ECOM) (東京都豊島区)
 - ② 特例認定 NPO 法人くるみー来未(神奈川県川崎市)※
 - ③ NPO 法人 芸術家と子どもたち(東京都豊島区)※
 - ④ NPO法人 コミュサーあおもり(青森県青森市)※
 - ⑤ NPO 法人 全国女性シェルターネット(東京都)※

- ⑥ NPO 法人 東京里山開拓団(東京都世田谷区)
- ⑦ 一般社団法人 栃木県若年者支援機構(栃木県宇都宮市)※
- ⑧ 認定 NPO 法人 びーのびーの(神奈川県横浜市)※
- ⑨ NPO 法人 フリースクール木のねっこ(広島県廿日市市)※
- ⑩ NPO法人 Tansa(ワセダクロニクルから名称変更)(東京都港区)※
- 選考審査委員:上村英明(恵泉女学園大教授)、加藤俊也(会計士)、橘高真佐美(弁護士)、土谷雅美(生活クラブ東京前理事長)、堀越栄子(日本女子大名誉教授)、水口剛(高崎経済大学教授)
- アドバイザー:坪郷實(認定 NPO まちぽっと理事/早稲田大学名誉教授)、三木由希子(認定 NPO まちぽっと理事/情報公開クリアリングハウス理事長)、高田幸詩朗(「草の根市民基金・ぐらん」運営委員/国際教育交流協議会(JAFSA)事務局長)
- PO 研修の開催
 - 第 4 回 PO 研修(役員・職員研修として)
 - ・ 日 時:2020 年 6 月 26 日(金)13 時 30 分~16 時
 - ・ 会 場:オンライン(Zoom)による
 - ・ テーマ:市民活動・市民事業と評価 ーその必要性和活かし方
 - ・ 講 師:今田 克司さん((一財)CSO ネットワーク常務理事/(特活)日本 NPO センター理事)
 - 第 5 回 PO 研修(役員・職員研修として)
 - ・ 日 時:2020 年 9 月 28 日(月)13 時 30 分~16 時
 - ・ 会 場:オンライン(Zoom)による
 - ・ テーマ:NPO・市民活動のこれまでとこれから ーアカツキの活動から
 - ・ 講 師:永田 賢介さん(認定 NPO 法人アカツキ理事・職員)
 - 第 6 回 PO 研修(役員・職員研修として)
 - ・ 日 時:2020 年 10 月 29 日(木)14 時~16 時 30 分
 - ・ 会 場:オンライン(Zoom)による
 - ・ テーマ:英国のボランタリーセクターと中間支援組織の変容
 - ・ 講 師:中島 智人さん(産業能率大学経営学部 教授)
 - 第 7 回 PO 研修(役員・職員研修として)
 - ・ 日 時:11 月 30 日(月)14 時~16 時 30 分
 - ・ 会 場:オンライン(Zoom)による
 - ・ テーマ:気候危機と市民活動
 - ・ 講 師:桃井 貴子さん(気候ネットワーク東京事務所長/認定 NPO 法人まちぽっと理事)
 - 第8回 PO 研修(役員・職員研修として)
 - ・ 日 時:2021 年 2 月 10 日(水)14 時~16 時 30 分
 - ・ 開催方法:オンライン(Zoom)による
 - ・ テーマ:プログラム・オフィサー(PO)のしごと …みらいファンド沖縄の活動から
 - ・ 講 師:平良 斗星さん(公益財団法人 みらいファンド沖縄副代表理事)
 - 第9回 PO 研修(役員・職員研修として)
 - ・ 日 時:2021 年 3 月 4 日(木)13 時~15 時 30 分
 - ・ 会 場:オンライン(Zoom)による
 - ・ テーマ:市民活動団体における活動・組織運営のための資金調達
…寄付文化の醸成に向けて必要な取組み
 - ・ 講 師:鵜尾 雅隆さん(日本ファンドレイジング協会 代表理事)

iii. 市民活動との連携・協力による市民事業の推進、情報の発信

多様な市民活動団体との連携・協力により、市民事業の発展や創出、推進に向けた取り組みを進めます。

9. NPO 法制定記録寄贈、HP 公開

NPO法制定時の記録文書の国立公文書館への寄贈等に向けた作業を継続して進めます。

《事業活動報告》

国立公文書館での受入れに向けた手続きが煩雑なことや COVID-19 の影響もあり、寄贈の作業が進まず頓挫した状況です。他の方法で閲覧可能な状態にするなど、その対応を検討し進めることとしました。

10. 「政治(政府)権力・権限集中化」の課題と是正に向けた取り組みへの協力

国政政党、政府機構による行き過ぎた政治権力の是正のための政策・制度等の検討に向けた取り組みに協力し、地方分権改革に向けた取り組みを進めます。

《事業活動報告》

関連団体と協力のもとに進めてきましたが、COVID-19 の影響などにより準備を進めることができず開催に至りませんでした。

11. 季刊誌、書籍等の発行

主に会員向け季刊誌・情報誌として、市民政策調査会と協力して「季刊アドボカシー」の発行を引き続き進めますが、そのあり方について引き続き検討します。

《事業活動報告》

編集委員会での検討をふまえて季刊アドボカシーをB5判48頁にリニューアルし年2回の発行として15号を発行しました。しかし、年2回の発行に至りませんでした。

- 編集委員：伊藤久雄、金子匡良、小林幸治、佐々木貴子、塩田三恵子、辻利夫、坪郷實、橋本治樹、三浦一浩
- 「アドボカシー」No.15 発行
 - 2020年7月25日/B5判 48頁/300部
 - 特集 出入国管理法改正—移民・移住労働者とともに作る豊かな社会を
 - ・ 当事者の声を「移民基本法」に —移民一人ひとりと共に生きる社会へ
 - ・ 日本の外国人政策とその課題 —外国人労働者受け入れ拡大をめぐる
 - ・ 移民・移住労働者に関わる国連・韓国の動き
 - ・ 新たな外国人材の受入れ —入管法等改正の経緯・背景とその概要
 - ・ 自治体の取り組み —新宿区の取組みから考える
 - ・ Advocacy Column 外国人・移民と憲法
 - ・ 認定 NPO 法人まちぼっと活動ニュース

12. Web サイトの更新及びメールマガジン等の配信

WEBサイトの更新を逐次進めるとともに、メールマガジンを発行し積極的な情報発信を進めます。

《事業活動報告》

認定 NPO 法人まちぼっとの事業活動や関連団体の情報を発信するためメールマガジンの配信を開始しました。

- メールマガまちぼっと・準備号の配信：6月25日、7月27日、8月18日、9月22日、10月6日(臨時号)、10月20日、11月18日、12月20日、2021年1月20日、2月24日、3月23日
- メールマガ登録者数：72名(2021年3月23日現在)

13. 「ブックレット作成」等受託

《事業活動報告》

立憲民主党から業務の依頼があり、1) つながる本部&障がい・難病 PT ヒアリング、2) NPO 関連予算公開ヒアリング、3) COVID-19(新型コロナウイルス感染症)による市民活動団体への影響調査、について受託し作業を進めました。1)については報告書の作成を、2)については準備作業の補助を、3)については調査の実施、集計を行いました。

1) 「つながる本部&障がい・難病 PT ヒアリング」報告書

- タイトル: 新型コロナウイルス感染症第3波 ～政治に私たちが見えていますか?
- 読者対象: 障がい者、障がい者団体関係者をはじめ有権者等(党所属議員の各所訪問の際の配布物などとしても活用)
- 企画意図: つながる本部&障がい・難病 PT をはじめ立憲民主党の取組みを周知し支援の拡大を図る
- 企画概要: 「つながる本部&障がい・難病 PT ヒアリング」の記録を主な内容とする
- 形態: A4判 48頁+表4 中綴じ

2) 「NPO 関連予算公開ヒアリング」への協力

- 開催日: 2月17日(水)
- 協力内容: 企画協力、開催準備

3) 「COVID-19(新型コロナウイルス感染症)による市民活動団体への影響調査」への協力

- 協力内容: アンケート項目の作成、結果の集計・整理

14. その他の連携・協力等

1) 「子ども基金」への協力

生活クラブ生協が進める「生活クラブエコロこども基金」の活動について、これまで進めてきた各種事業を通じて助言、協力を行い、豊かな地域づくりに向けた取り組みを進めます。

《事業活動報告》

「生活クラブ・子ども基金」の審査委員として小林理事兼事務局長が3回の審査委員会に参加しました。

- 協力内容: 「生活クラブエコロこども基金」審査会への参加
 - 役割: 審査会は助成事業の申請に基づき審査を行い、東京理事会に承認を諮る。また特定・協働型支援およびその他事業の団体の審査を行い、東京理事会に承認を諮る。
 - 構成: 生活クラブ(東京・各ブロック)、運動グループの活動団体(PJ参加団体から)、認定NPO法人まちぼっと、学識経験者 事務局・生活クラブ東京
- 審査会の開催
 - ・ 第1回: 10月8日、第2回: 11月5日、第3回: 2021年3月10日

2) 東京 CPB への参加・協力

東京コミュニティパワーバンク(東京CPB)の役員として参画し、各種事業への参加・協力を進めます。

3) 生活クラブ運動グループ・東京連絡会

生活クラブ運動グループ・東京連絡会に運営委員として参画し、各種事業への参加・協力を進めます。

4) インクルーシブ事業連合への参加・協力

生活クラブ運動グループ・インクルーシブ事業連合の運営委員として参画し、各種事業への参加・協力を進めます。

5) アビリティクラブたすけあい(ACT)への参加・協力

アビリティクラブたすけあい(ACT)の役員として参画し、各種事業への参加・協力を進めます。

《事業活動報告》

2)東京 CPB への参加・協力については理事として、3)生活クラブ運動グループ・東京連絡会については運営委員として、4)インクルーシブ事業連合への参加・協力については運営委員として佐々木理事長が参加し、5)アビリティクラブたすけあい(ACT)への参加・協力については小林理事兼事務局長が理事として参加しました。

iv. 事業・経営基盤の安定化及び組織・運営体制の強化

第5期中期計画にもとづき、事業毎にその検証と見直しを図りその強化を進めます。また、同時に人事等の見直しにより組織・運営体制の強化を図ります。

- * 事業活動毎に「経営基盤の強化・安定化、目的や効果などについて各事業活動の検証と見直し」、「組織運営体制の強化のための人材の確保」などを順次進めます。

15. 理事懇談会の開催

《事業活動報告》

認定NPO法人まちぼっとの現状の事業活動をふり振り返り今後の方向性を確認することを目的にして、役員及び事務局スタッフの参加のもとに2020年度理事懇談会を3回開催し、「2020年度理事懇談会報告」としてまとめました。

- 第1回:2020年7月13日18:00~17:30
 - 内容:1.事業活動経過報告
2.質疑・意見交換
- 第2回:2020年10月5日(月)15:00~16:30
 - 内容:1.事業活動経過報告
2.質疑・意見交換
- 第3回:2020年12月23日(水)16時00分~17時00分
 - 内容:理事懇談会まとめについて

2020年度事業一覧

中期計画による 事業目標	実施形態	事業名	財源	担当理事等 (備考)
i. 「市民自治・参加・分権」にもとづく地域・市民社会の強化	独自/継続	1. 「空き家活用・居住支援」事業	一部助成金	赤坂、伊藤、小林(幸)
	独自/継続	2. 「まちぼっとセミナー」等開催事業	自己資金 参加費	伊藤、三浦 武内、小林(幸)
	独自/継続	3. 「自治体政策・制度」調査研究事業	自己資金	坪郷、小林(幸)
	独自/継続	4. 「市民事業・自治体議員研修」事業	自己資金	小林(幸)
	独自/継続	5. ケアラー支援調査プロジェクト	受託費	小林(幸)
ii. 市民の主体的活動・事業への支援	独自/継続	6. 草の根市民基金・ぐらん	寄付金	田中、奥田 三浦、小林(幸)
	独自/継続	7. ソーシャル・ジャスティス基金(SJF)	寄付金 助成金	佐々木、金子
	独自/継続	8. 市民社会強化活動支援事業(Pecs)	助成金	坪郷、三木、 小林(幸)
iii. 市民活動との連携・協力による市民事業の推進、情報の発信	独自/継続	9. NPO 法定記録寄贈、HP 公開	自己資金	辻 ^{注)}
	独自/新規	10. 「政治(政府)権力・権限集中化」の課題と是正に向けた取り組みへの協力	自己資金	小林(幸) (終了)
	独自/継続	11. 季刊誌、書籍等の発行	会費 自己資金	伊藤、金子、塩田、佐々木、 坪郷、三浦、小林(幸)
	独自/ 一部新規	12. Web サイトの更新及びメールマガジン等の配信	自己資金	小林(幸)
	独自/新規	13. 「ブックレット作成」等委託	委託費	小林(幸)(終了)
	独自/継続	14. その他の連携・協力等	報酬 自己資金	適宜対応
iv. 事業・経営基盤の安定化及び組織・運営体制の強化	独自/新規	15. 理事懇談会の開催	自己資金	理事会 (2020年度終了)

※ 「担当理事等」については、各事業の運営委員、アドバイザー、編集委員、等でご参画いただいている役員の方々も含めてお示しました。

※ 注)については、現在は監事ですが前職で業務を遂行されており担当理事等の変更がされておられませんのでお示しました。